

令和5年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県南会場

科目 ④子どもの発達理解

- ◆ 子どもの発達について、個々の違いを考慮しつつも今の子どもがどういった時期にいてどういった特徴を持っているのかを理解することは、放課後児童支援員として大切であると知りました。そして、私たち支援員もまた、育成支援を継続的に学び合い、共有していくことも生涯発達へ繋がるということを学びました。
- ◆ 子どもたちが発達していく中で言語や思考・感情などを学びながら、人格・社会性を形成していく過程が理解できます。乳児期から老人期までの発達区分の中で、乳児期や児童期は遊びや物事を学習する能力が最も盛んなときと言えます。このように一生で一番大切な時期に子どもたちと接する大人すべての対応はとても重要であり、放課後児童クラブの現場にいる大人としてその環境を整える重要な役割を担っていると改めて感じました。
- ◆ 子どもの発達理解について、一人一人違うため、普段から体調や心の変化などに気をつけながら、見届けをする必要があると感じました。放課後児童クラブは学校とは違う遊びや友達関係の中で、私たち職員が見守りつつ、成長を援助しなければと思いました。特に支援員間での情報交換や振り返りの時間を共有することで、お互い理解し合い、児童の成長につながる事が分かりました。
- ◆ 子どもは生活や遊び、学習において成功や失敗を繰り返しながら成長していくものと考えます。その中で日々子どもと関わっている私たち支援員の役割は重要であると再認識しました。子どもの発達理解を深めるために、継続的に学習することが必要であると感じ、自分自身の人間性を高めるためにも常に向上心をもって学び続けたいと思います。
- ◆ 子どもの発達における過程やそれを踏まえた支援の重要性を学びました。乳児期における愛着の大切さ、そのためにどうしたらいいのか、幼児期の子どもの姿など勉強になりました。また、学校生活が中心になる児童期には、物事の捉え方や意識が変化していく様子も分かりました。児童期の間にもどんどん変わっていく子どもたちの様子をよく見ながら、それぞれに対応していけるようになりたいと思います。